

今月の聖語



人は
善根をなせば
必ずさ^栄からう

日蓮聖人御遺文、上野殿御返事

一善根を積もう一

新年おめでとうございます。

喜びごとがあると、まず「おめでとう」と言いますが、その語源を辿ると、諸説の1つに「賞賛する」意味の「めで(愛で)る」に甚だしい様を示す「いたし」が付いて「めでいたし」となり、それが縮まって「めでたい」となったそうです。つまり大いに褒め称えるべきことなのです。

ならば「めでたい年」にするには人頼みではなく、自ら称賛値する善根を積む努力が重要になります。その心がけの第1歩はすべてに向かって謙虚になることではないでしょうか。

「実るほど頭を垂れる稲穂かな。垂れるほど人は見上げる藤の花」今年の座右の銘にされてはいかがですか。

『上野殿御返事』

富士上野に住む信徒の南条時光が元旦に続いて正月3日にも数多くの供養品を送ったことへの礼状です。

困窮する身延での聖人の生活を助けるため、頻繁に供養の品々を送り続けました。

聖人はその善根に対し、感謝するとともに一層の法華経信仰を督励されました。

弘安3年(1280)

聖寿59歳